

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

| | | | |
|-------|------------|--------|-------|
| 学校名 | 北広島町立大朝小学校 | | |
| 学校長氏名 | 山根 昌美 | 栄養教諭氏名 | 大内 朱莉 |
| 職員数 | 12名 | 児童・生徒数 | 63名 |

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

給食時間における食に関する指導では、配膳をする際につぎきり、つがれたものは食べきるという指導が徹底されており残菜はほとんどない。しかし、基本的な食事のマナーが身につけていない児童もおり、調理場への返却の仕方にも課題がある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

生涯にわたって、健康でいきいきとした生活を送ることをめざし、児童一人一人が望ましい食生活の基礎・基本を身につけ、食べることを通じて、自らの健康管理ができるようにする。また、楽しい食事や給食活動を通じて豊かな心を育成し、社会性を養う。

短期目標：健康・食に関する指導を充実し、食への関心を高め、望ましい食生活を身につける。

評価指標：児童の食育アンケートにおいて肯定的評価をした児童の割合

目標値：85%以上

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ）給食の時間における食に関する指導・食育朝会について

給食指導年間計画を作成し、基本的な食事のマナーが身につくよう毎月の給食目標を設定、継続的・計画的に指導を行った。毎日各学級の様子を見て回り、給食目標にそった声かけを行い、木曜日は学級を訪問し指導を行うとともに、一緒に給食を食べて児童の現状や課題を把握した。6月には食育朝会において、課題である食缶の正しい返却の仕方について話をした後、児童にこれまでの自分の返却の仕方を振り返らせるための「食に関するアンケート」を行った。年度末にも、指導の内容がどの程度児童に身につけているか6月からの変容を把握するためアンケートを実施した。



【取組2】（テーマ）各教科等における食に関する指導の充実にむけた取組について

各学年において食に関する指導を行い、2・3年生においては今年度重点的に取り組んでいる「食事のマナー」についての授業を行った。

2年生においては、授業の中で立てた自分の目標の達成に向けて1週間取組を行い、給食試食会の際に保護者の方に評価をしていただいた。授業では、給食の様子を写真で撮影したものを示すことで、自分では気付かなかった給食中の自分の姿を振り返ることができ、課題意識を持たせることができた。授業後には、お互いに声を掛け合いながら意識して取り組む姿がみられた。

【取組3】(テーマ)「みんなで作ろう!北広島の『夢プロ給食』給食メニューコンテスト」 の取組について

今年度で2年目の取組となる北広島町主催のメニューコンテストに、夏休みの課題として取り組んだ。北広島町でとれる食材「お米・ホウレン草・トマト・キャベツ・りんご」のいずれか1つを使用したメニューが募集され、大朝小学校児童のメニューが優秀賞に選ばれた。1月の全国学校給食週間に学校給食で提供し、児童は関心を持って給食を食べていた。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- 夏季休業中の町内学校給食調理員研修会で、ひろしま給食メニューの調理実習・試食・意見交流を行った。
- 10月の給食でひろしま給食5品を実施、さらに学級を訪問し宣伝を行った。
- 参加を通信等で家庭に呼びかけ、シールを活用して学級ごとに集計することで、関心を高めながら広島県の食材についての知識を高めた。
- ひろしま給食実施日に給食試食会を開催し、保護者の方に食べていただくとともに、ひろしま給食について情報発信を行った。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

2学期と3学期の2回行った食育アンケートより児童の変化を見取った。2回目のアンケート結果において、肯定的評価全項目平均においては89%と1回目を3パーセント上回った。「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶は100%達成でき、課題であった姿勢については84%と6%向上した。今年度重点的に取り組んだ感謝の気持ちを表すことにつながる食缶の返却についても、肯定的評価をした児童の割合は98%と高かった。

【課題】

食缶の返却について、児童はきちんと返却していると意識しているが、実際はきれいに重ねる事ができていないなどの課題がみられることから、引き続き指導が必要である。

また、姿勢においても声かけをするとすぐに直すことができるが、自ら意識して実践する事は難しく、継続的な指導が必要である。

6 今後の取組に向けた改善方策について

年度当初に、新1年生も含めた全校児童に食缶の返却方法を再度確認する場を設定し、食缶の返却についての強化週間を設けるなど、児童自ら振り返りができるような取組を実施する。

給食試食会を活用して、マナーや姿勢についても保護者と課題を共有する。そして、家庭と学校で統一の指導を行い、継続的で効果的な指導を目指す。